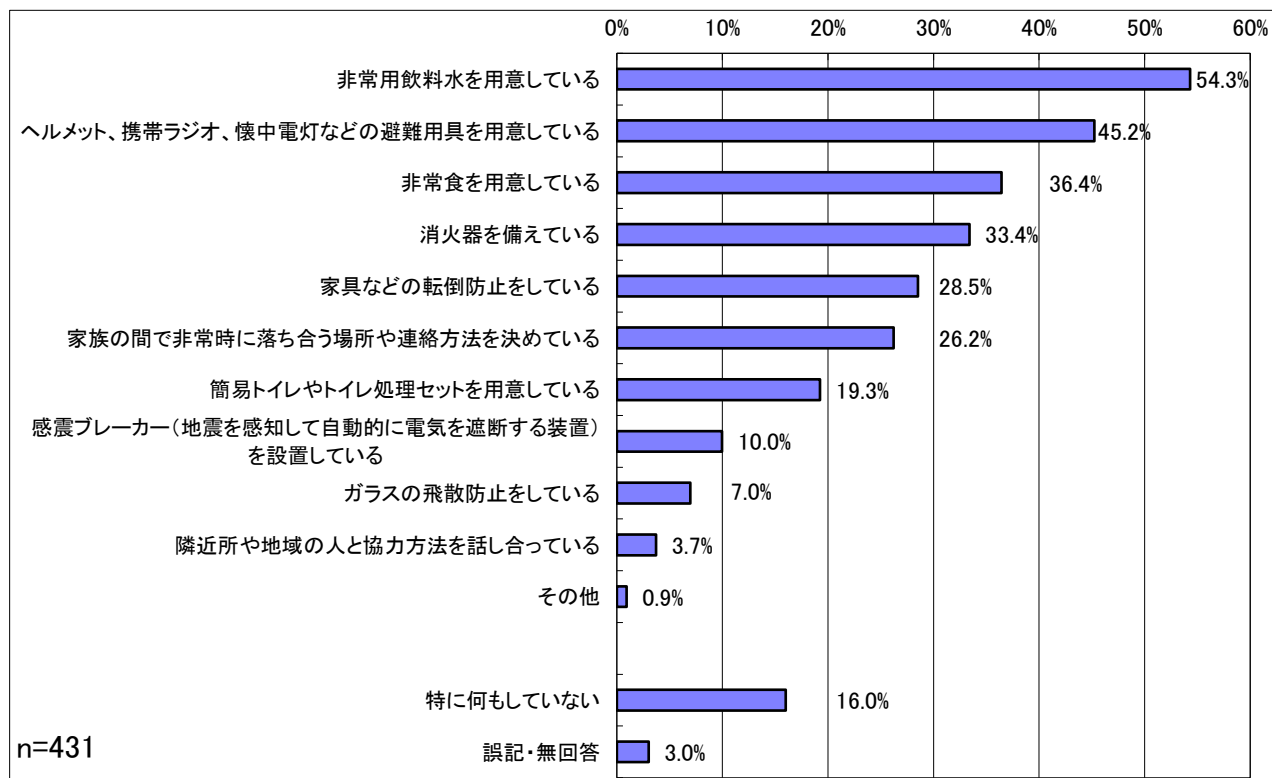


## 【まちづくり】

### <防災について>

問6 あなたの家では、地震などの災害に備えて何か準備をしていますか。  
(○印はいくつでも)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
非常用飲料水を用意している	234	54.3%	1
ヘルメット、携帯ラジオ、懐中電灯などの避難用具を用意している	195	45.2%	2
非常食を用意している	157	36.4%	3
消火器を備えている	144	33.4%	4
家具などの転倒防止をしている	123	28.5%	5
家族の間で非常時に落ち合う場所や連絡方法を決めている	113	26.2%	6
簡易トイレやトイレ処理セットを用意している	83	19.3%	7
感震ブレーカー(地震を感知して自動的に電気を遮断する装置)を設置している	43	10.0%	8
ガラスの飛散防止をしている	30	7.0%	9
隣近所や地域の人と協力方法を話し合っている	16	3.7%	10
その他	4	0.9%	—
特に何もしていない	69	16.0%	
誤記・無回答	13	3.0%	



災害への備えについてたずねたところ、「非常用飲料水を用意している」が54.3%で最も多く、次いで「ヘルメット、携帯ラジオ、懐中電灯などの避難用具を用意している」が45.2%、「非常食を用意している」が36.4%となっており、物品の備えに関するものが上位になりました。

また、およそ80%の人が何らかの災害に対する備えをしていると回答しています。

## <経年変化>

平成25年度からの推移を見ると、「非常用飲料水を用意している」、「ヘルメット、携帯ラジオ、懐中電灯などの避難用具を用意している」、「非常食を用意している」といった上位3位までの構成に変化はありません。

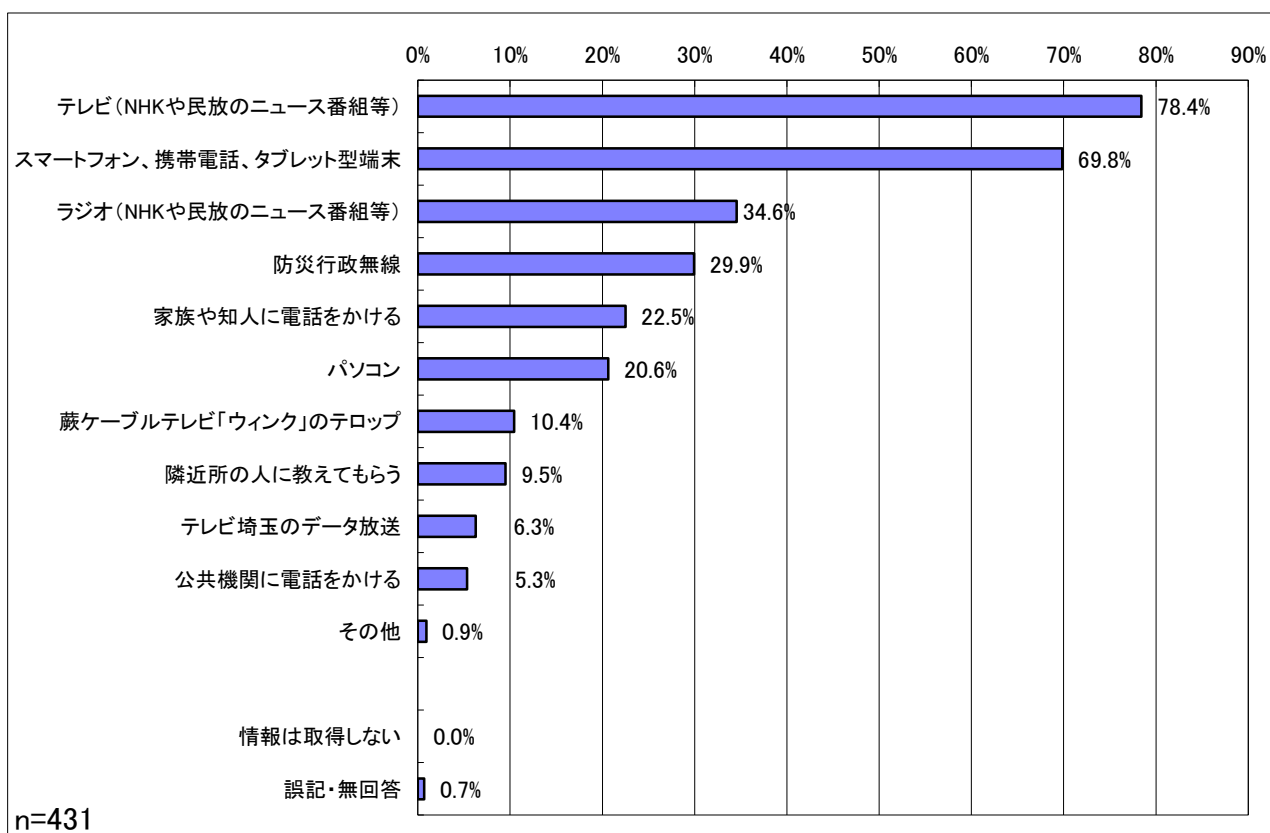
### ●災害に備えて準備していること 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	非常用飲料水を用意している 53.5%	ヘルメット、携帯ラジオ、ローソクなどの避難用具を用意している 50.1%	非常食を用意している 40.8%	家具などの転倒防止をしている 39.4%	消火器を備えている 34.6%
平成26年度	非常用飲料水を用意している 52.5%	ヘルメット、携帯ラジオ、ローソクなどの避難用具を用意している 50.9%	非常食を用意している 44.3%	家具などの転倒防止をしている 34.7%	消火器を備えている 33.1%
平成27年度	非常用飲料水を用意している 52.7%	ヘルメット、携帯ラジオ、ローソクなどの避難用具を用意している 48.5%	非常食を用意している 40.8%	消火器を備えている 35.3%	家族の間で落ち合う場所や連絡方法を決めている 29.5%
平成28年度	非常用飲料水を用意している 54.6%	ヘルメット、携帯ラジオ、懐中電灯などの避難用具を用意している 49.6%	非常食を用意している 39.2%	消火器を備えている 34.8%	家具などの転倒防止をしている 31.0%
今回	非常用飲料水を用意している 54.3%	ヘルメット、携帯ラジオ、懐中電灯などの避難用具を用意している 45.2%	非常食を用意している 36.4%	消火器を備えている 33.4%	家具などの転倒防止をしている 28.5%

※平成28年度に選択肢の表現を見直し

問7 あなたは災害が発生した場合、どのような方法で情報を取得しますか。  
(○印はいくつでも)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
テレビ(NHKや民放のニュース番組等)	338	78.4%	1
スマートフォン、携帯電話、タブレット型端末	301	69.8%	2
ラジオ(NHKや民放のニュース番組等)	149	34.6%	3
防災行政無線	129	29.9%	4
家族や知人に電話をかける	97	22.5%	5
パソコン	89	20.6%	6
蕨ケーブルテレビ「ウイंक」のテロップ	45	10.4%	7
隣近所の人に教えてもらう	41	9.5%	8
テレビ埼玉のデータ放送	27	6.3%	9
公共機関に電話をかける	23	5.3%	10
その他	4	0.9%	—
情報は取得しない	0	0.0%	
誤記・無回答	3	0.7%	



災害が発生した場合、どのような方法で情報を取得するかたずねたところ、「テレビ(NHKや民放のニュース番組等)」が78.4%で最も多く、次いで「スマートフォン、携帯電話、タブレット型端末」が69.8%と即時性が高い方法で情報を取得していることが伺えます。

<自転車における交通安全について>

**問8** あなたと、あなたと同居のご家族における自転車の安全利用についてお伺いします。

回答対象者: 431人		人数
家族の人数(あなたを含む)		1,176人
うち、自転車を利用する人数		832人
乗車時にヘルメットを着用する人数		56人
自転車保険に加入している人数		314人
TSマーク※付帯保険に加入している人数		241人
個人賠償責任保険の対象となる人数(自動車保険・火災保険の特約)		363人

自転車の安全利用についてたずねたところ、多くの方が自転車を利用しており、ヘルメットの着用割合は7%程度の結果となりました。

問8で「ヘルメットを未着用または保険に未加入」と答えた人のみ回答

**問9** ヘルメットを着用しない、または保険に加入しない理由はなんですか。  
(○印はいくつでも)

ヘルメットを着用しない理由(回答対象者: 361人)	件数	割合	順位
そもそも意識したことがない	196	54.3%	1
重い、蒸れるなど不快 髪型が崩れる	81	22.4%	2
交通ルールを守っているため不要	68	18.8%	3
見た目が悪い	44	12.2%	4
値段が高い	18	5.0%	5
その他	22	6.1%	—
誤記・無回答	73	20.2%	

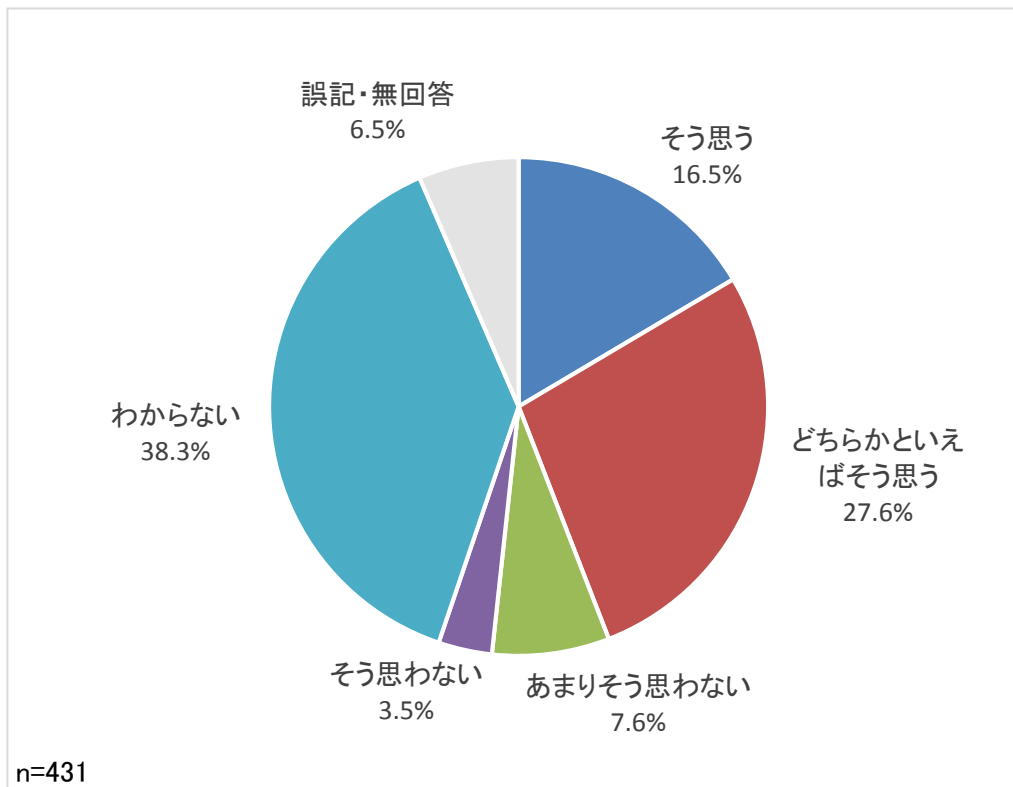
保険に加入しない理由(回答対象者: 158人)	件数	割合	順位
そもそも意識したことがない	106	67.1%	1
交通ルールを守っているため不要	26	16.5%	2
加入方法が分からない	24	15.2%	3
保険料が高い	23	14.6%	4
手続きが面倒	20	12.7%	5
その他	20	12.7%	—
誤記・無回答	33	20.9%	

ヘルメットを着用しない理由、保険に加入しない理由をたずねたところ、どちらも「そもそも意識したことがない」という回答が多数となる結果となりました。

<子育てについて>

問10 蕨市は子育てしやすいまちだと思いますか。(○印は1つ)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
そう思う	71	16.5%	3
どちらかといえばそう思う	119	27.6%	2
あまりそう思わない	33	7.6%	4
そう思わない	15	3.5%	5
わからない	165	38.3%	1
誤記・無回答	28	6.5%	

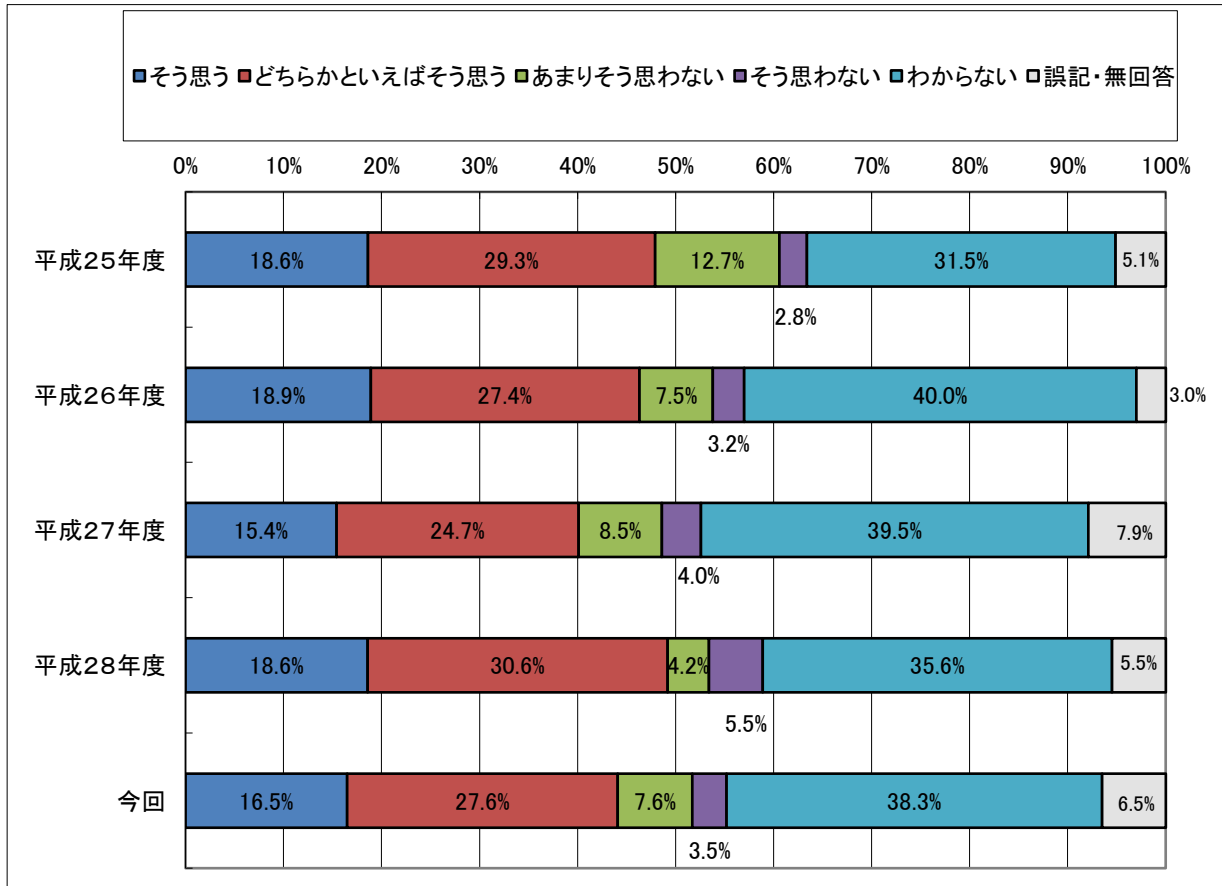


蕨市は子育てしやすいまちだと思うかたずねたところ、「そう思う」16.5%、「どちらかといえばそう思う」27.6%を合わせると44.1%、一方、「そう思わない」3.5%、「あまりそう思わない」7.6%を合わせると11.6%となりました。  
また、約4割の人が「わからない」と答えています。

## < 経年変化 >

平成25年度からの推移を見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が平均して45%程度となっています。

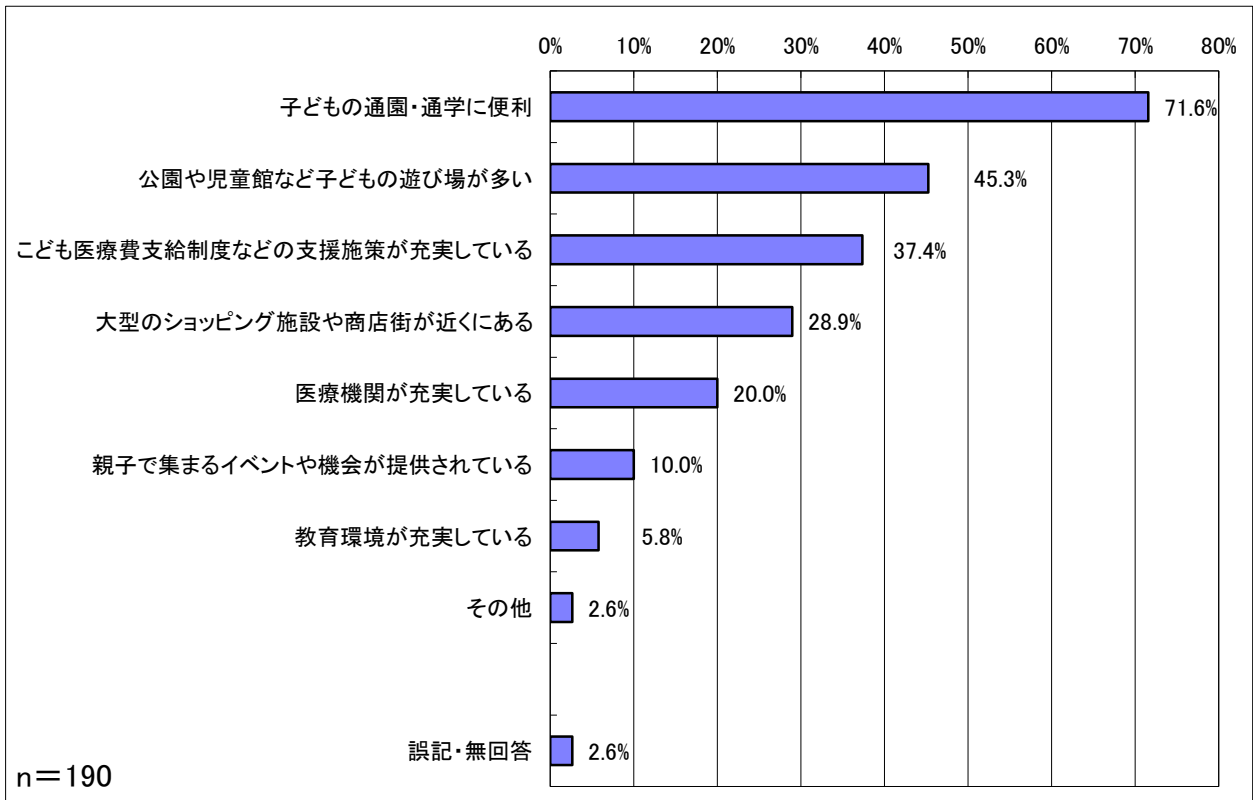
●子育てについて(平成25年度からの推移)



問10で「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた人のみ回答

問11 子育てがしやすいと思う理由はなんですか。(○印は3つ以内)

回答対象者:190人	件数	割合	順位
子どもの通園・通学に便利	136	71.6%	1
公園や児童館など子どもの遊び場が多い	86	45.3%	2
こども医療費支給制度などの支援施策が充実している	71	37.4%	3
大型のショッピング施設や商店街が近くにある	55	28.9%	4
医療機関が充実している	38	20.0%	5
親子で集まるイベントや機会が提供されている	19	10.0%	6
教育環境が充実している	11	5.8%	7
その他	5	2.6%	—
誤記・無回答	5	2.6%	

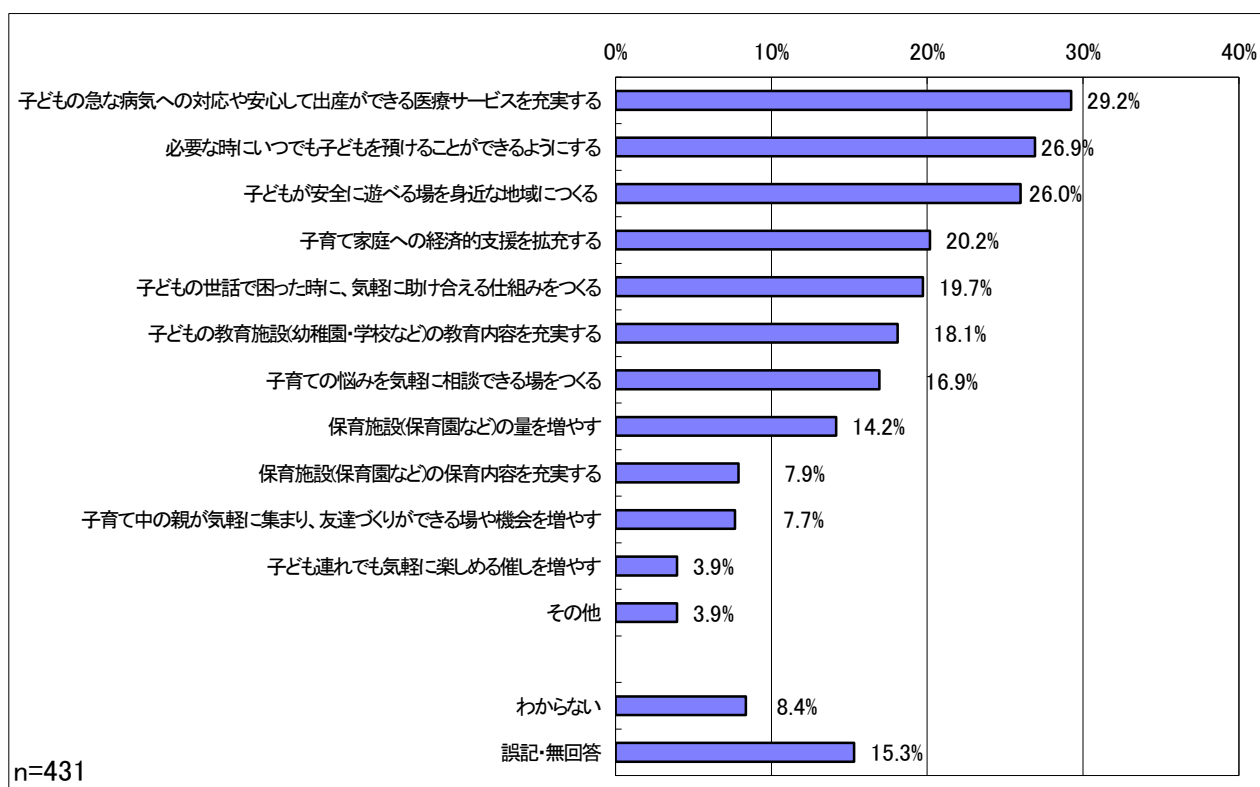


蕨市が子育てしやすいまちだと感じている人に、その理由をたずねたところ、1位は「子どもの通園・通学に便利」が71.6%、以下、「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」が45.3%、「こども医療費支給制度などの支援施策が充実している」が37.4%、「大型のショッピング施設や商店街が近くにある」が28.9%と続いています。



問12 蕨市をより子育てしやすいまちにするためには、どのようなことが大切だと思いますか。(○印は3つ以内)

回答対象者:431人	件数	割合	順位
子どもの急な病気への対応や安心して出産ができる医療サービスを充実する	126	29.2%	1
必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする	116	26.9%	2
子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる	112	26.0%	3
子育て家庭への経済的支援を拡充する	87	20.2%	4
子どもの世話で困った時に、気軽に助け合える仕組みをつくる	85	19.7%	5
子どもの教育施設(幼稚園・学校など)の教育内容を充実する	78	18.1%	6
子育ての悩みを気軽に相談できる場をつくる	73	16.9%	7
保育施設(保育園など)の量を増やす	61	14.2%	8
保育施設(保育園など)の保育内容を充実する	34	7.9%	9
子育て中の親が気軽に集まり、友達づくりができる場や機会を増やす	33	7.7%	10
子ども連れでも気軽に楽しめる催しを増やす	17	3.9%	11
その他	17	3.9%	—
わからない	36	8.4%	
誤記・無回答	66	15.3%	



蕨市をより子育てしやすいまちにするために大切なことをたずねたところ、「子どもの急な病気への対応や安心して出産ができる医療サービスを充実する」が29.2%と最も多く、次いで、「必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする」が26.9%、「子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる」が26.0%と続いています。

## <経年変化>

平成25年度からの推移を見ると、上位の項目の構成に大きな変化はありません。また、平成27年度に4位だった「保育施設(保育園など)の量を増やす」、は今年度8位となり、昨年度の7位に引き続き上位から外れています。

### ●子育てしやすいまちにするため大切だと思うこと 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	子どもの急な病気に対応できる医療サービスを充実する 46.2%	子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる 36.6%	必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする 34.6%	幼稚園、保育所、学校など子どもの保育、教育を充実する 34.1%	子どもの世話で困った時に、気軽に助け合える仕組みをつくる 20.0%
平成26年度	子どもの急な病気への対応や安心して出産ができる医療サービス 38.4%	必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする 29.0%	子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる 28.5%	子どもの世話で困った時に、気軽に助け合える仕組みをつくる 22.4%	保育施設(保育園など)の量を増やす 22.1%
平成27年度	子どもの急な病気への対応や安心して出産ができる医療サービスを充実する 35.9%	必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする 27.8%	子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる 27.3%	保育施設(保育園など)の量を増やす 20.2%	子育て家庭への経済的支援を拡充する 19.6%
平成28年度	子どもの急な病気への対応や安心して出産ができる医療サービスを充実する 32.1%	必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする 26.4%	子育て家庭への経済的支援を拡充する 子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる 23.0%	子育て家庭への経済的支援を拡充する 20.2%	子どもの世話で困った時に、気軽に助け合える仕組みをつくる 20.7%
今回	子どもの急な病気への対応や安心して出産ができる医療サービスを充実する 29.2%	必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする 26.9%	子どもが安全に遊べる場を身近な地域につくる 26.0%	子育て家庭への経済的支援を拡充する 20.2%	子どもの世話で困った時に、気軽に助け合える仕組みをつくる 19.7%

※回答項目の修正をしている箇所があるため同じ選択項目になっていません。

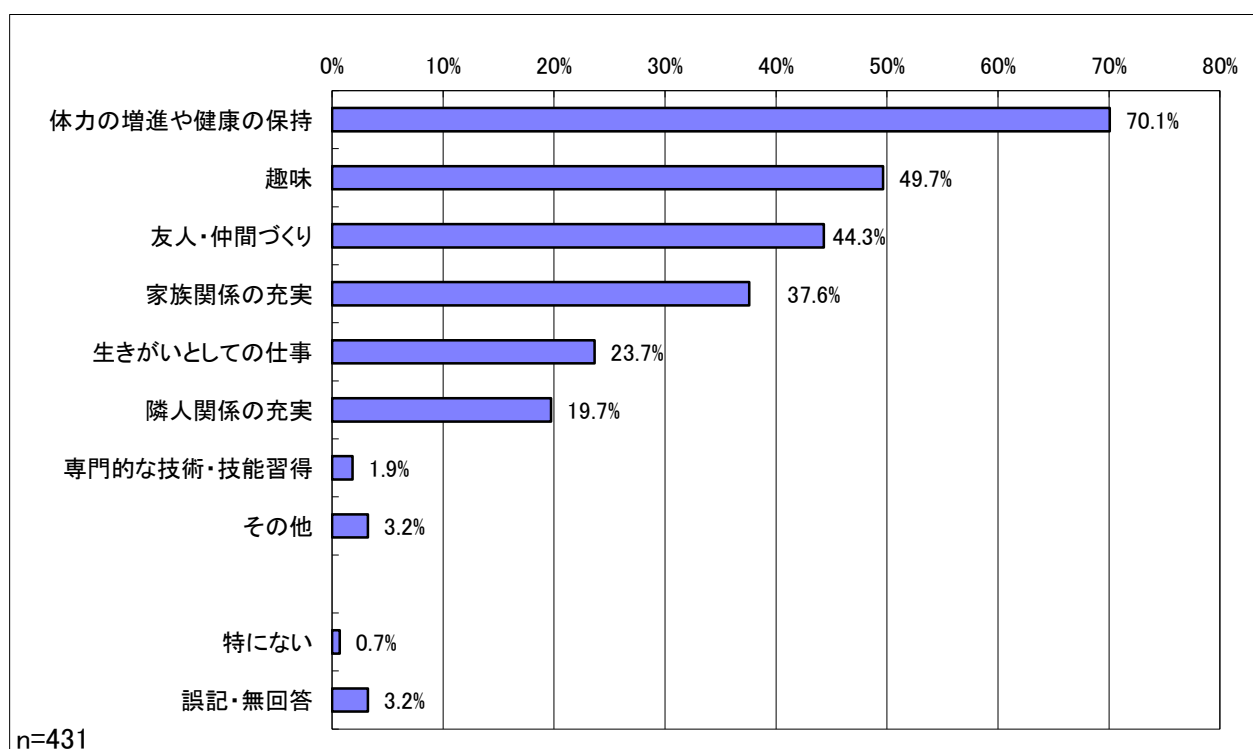
※平成26年度より回答の選択肢を増やしたため、割合が全体的に下がっています。

(11項目→13項目)

<高齢期に大切なことについて>

問13 あなたが高齢期を迎える(迎えた)ときに何が大切だと思いますか。  
(○印は3つ以内)

回答対象者:431人	件数	割合	順位
体力の増進や健康の保持	302	70.1%	1
趣味	214	49.7%	2
友人・仲間づくり	191	44.3%	3
家族関係の充実	162	37.6%	4
生きがいとしての仕事	102	23.7%	5
隣人関係の充実	85	19.7%	6
専門的な技術・技能習得	8	1.9%	7
その他	14	3.2%	—
特にない	3	0.7%	
誤記・無回答	14	3.2%	



高齢期を迎える(迎えた)ときに大切だと思うことについてたずねたところ、「体力の増進や健康の保持」が70.1%と最も多く、次いで、「趣味」が49.7%、「友人・仲間づくり」が44.3%、「家族関係の充実」が37.6%となっています。

## <経年変化>

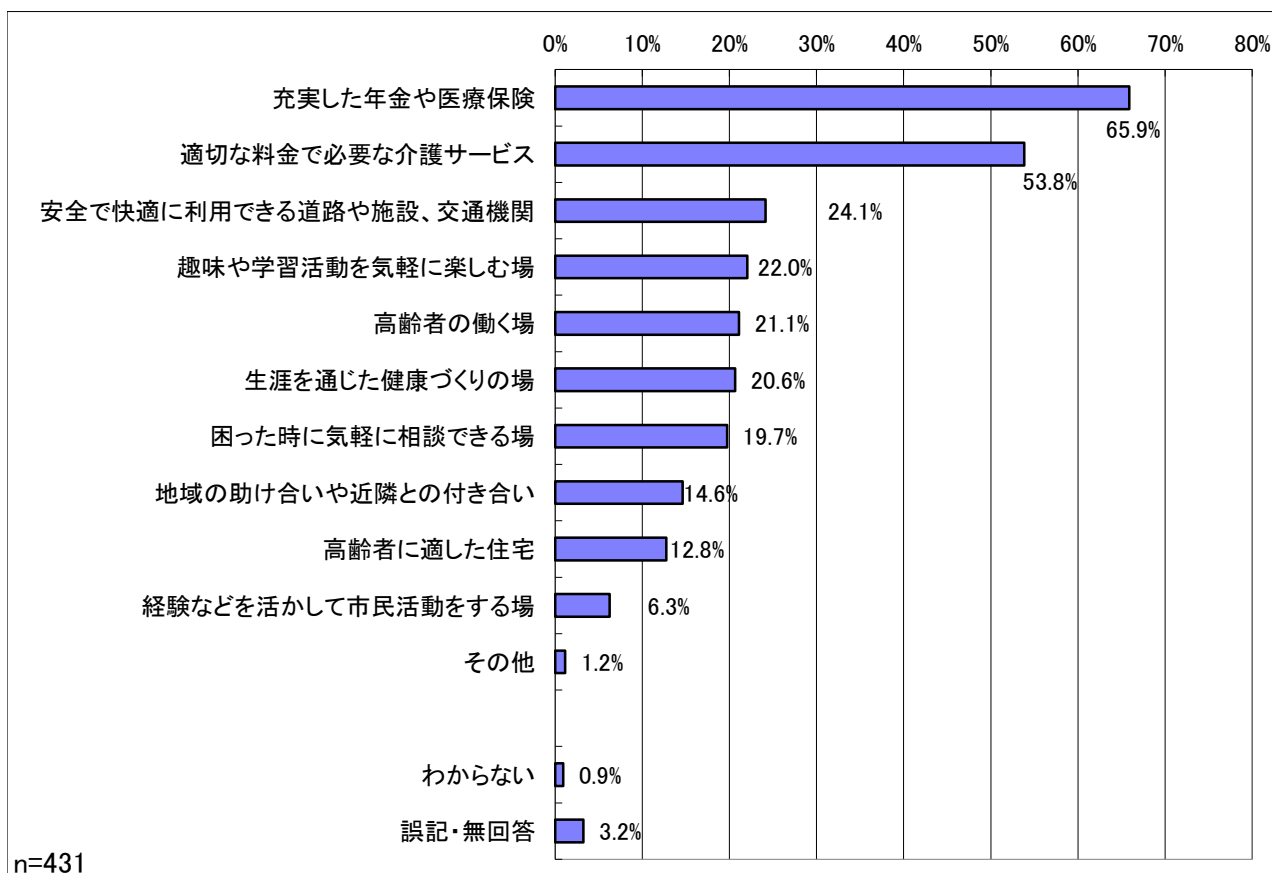
平成25年度からの推移を見ると、上位の項目の構成に大きな変化はありませんが、「体力の増進や健康の保持」の回答割合に上昇傾向が見られます。

### ●高齢期を迎える(迎えた)ときに大切だと思うこと 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	体力の増進や健康の保持 65.4%	趣味 53.2%	友人・仲間づくり 49.0%	家族関係の充実 31.3%	隣人関係の充実 29.3%
平成26年度	体力の増進や健康の保持 69.6%	趣味 54.3%	友人・仲間づくり 47.0%	家族関係の充実 39.3%	生きがいとしての仕事 20.8%
平成27年度	体力の増進や健康の保持 68.1%	趣味 48.0%	友人・仲間づくり 45.4%	家族関係の充実 35.9%	生きがいとしての仕事 22.6%
平成28年度	体力の増進や健康の保持 68.6%	趣味 57.6%	友人・仲間づくり 48.5%	家族関係の充実 37.3%	生きがいとしての仕事／隣人関係の充実 18.1%
今回	体力の増進や健康の保持 70.1%	趣味 49.7%	友人・仲間づくり 44.3%	家族関係の充実 37.6%	生きがいとしての仕事 23.7%

問14 高齢期を生き生きと過ごせるまちなにするため、どのような環境が大切だと思いますか。  
(○印は3つ以内)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
充実した年金や医療保険	284	65.9%	1
適切な料金で必要な介護サービス	232	53.8%	2
安全で快適に利用できる道路や施設、交通機関	104	24.1%	3
趣味や学習活動を気軽に楽しむ場	95	22.0%	4
高齢者の働く場	91	21.1%	5
生涯を通じた健康づくりの場	89	20.6%	6
困った時に気軽に相談できる場	85	19.7%	7
地域の助け合いや近隣との付き合い	63	14.6%	8
高齢者に適した住宅	55	12.8%	9
経験などを活かして市民活動をする場	27	6.3%	10
その他	5	1.2%	-
わからない	4	0.9%	
誤記・無回答	14	3.2%	



高齢期を生き生きと過ごせるまちなにするために大切な環境についてたずねたところ、「充実した年金や医療保険」が65.9%と最も多く、次いで「適切な料金で必要な介護サービス」の53.8%と、高齢期の生活基盤・医療・福祉が充実した環境を必要とする回答が多くなっています。

## <経年変化>

平成25年度からの推移を見ると、1位と2位の項目に変動はありませんが、3位以下の項目は毎年入れ替わっています。そのなかで、「高齢者の働く場」に近年上昇傾向が見られます。

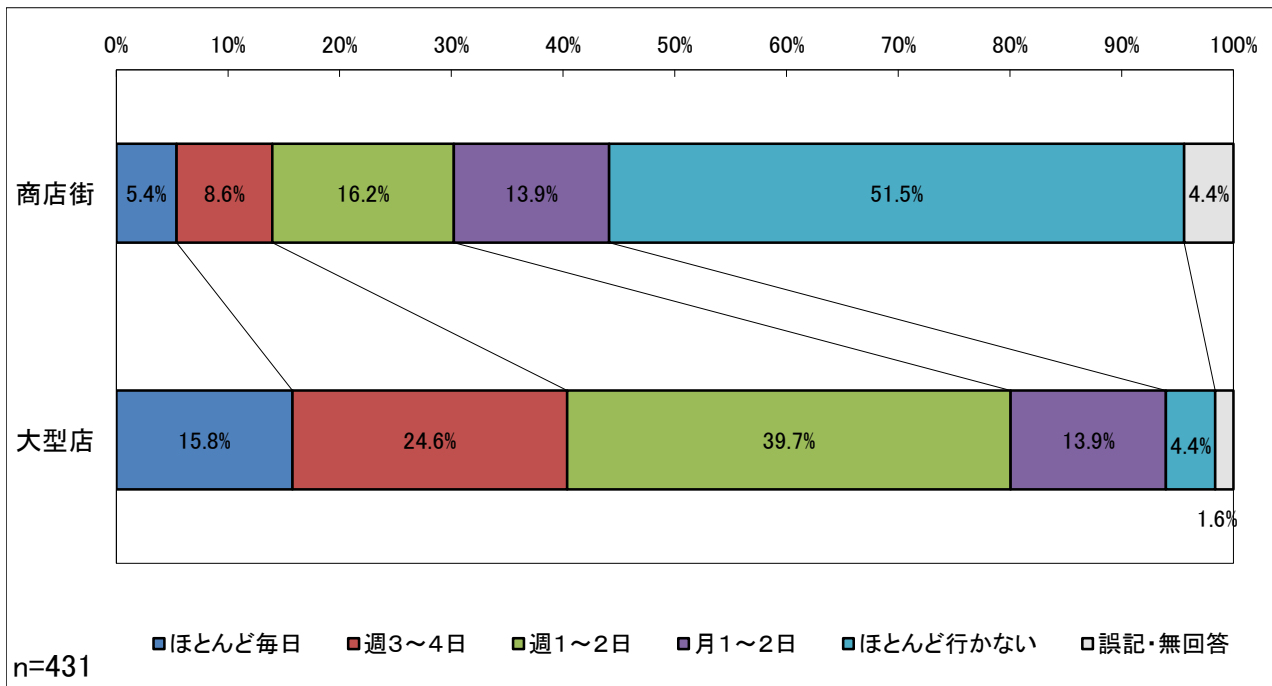
### ●高齢期を生き生きと過ごせるまににするために大切な環境 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	充実した年金や医療保険 62.8%	適切な料金で必要な介護サービス 48.2%	趣味や学習活動を気軽に楽しむ場 28.2%	安全で快適に利用できる道路や施設、交通機関 25.6%	困った時に気軽に相談できる場 22.5%
平成26年度	充実した年金や医療保険 68.5%	適切な料金で必要な介護サービス 51.4%	趣味や学習活動を気軽に楽しむ場 26.9%	地域の助け合いや近隣との付き合い 21.5%	生涯を通じた健康づくりの場 19.6%
平成27年度	充実した年金や医療保険 66.6%	適切な料金で必要な介護サービス 51.9%	安全で快適に利用できる道路や施設、交通機関 22.0%	困った時に気軽に相談できる場 20.5%	趣味や学習活動を気軽に楽しむ場 19.5%
平成28年度	充実した年金や医療保険 68.1%	適切な料金で必要な介護サービス 54.9%	趣味や学習活動を気軽に楽しむ場 22.6%	生涯を通じた健康づくりの場 19.8%	高齢者の働く場 19.4%
今回	充実した年金や医療保険 65.9%	適切な料金で必要な介護サービス 53.8%	安全で快適に利用できる道路や施設、交通機関 24.1%	趣味や学習活動を気軽に楽しむ場 22.0%	高齢者の働く場 21.1%

<まちのにぎわいについて>

問15 買い物についてお伺います。あなたが商店街や大型店(スーパーマーケット、デパート)へ行く頻度について、あてはまるものをお選びください。(○印はそれぞれ1つ)

回答対象者:431人	商店街			大型店		
	件数	割合	順位	件数	割合	順位
ほとんど毎日	23	5.4%	5	68	15.8%	3
週3~4日	37	8.6%	4	106	24.6%	2
週1~2日	70	16.2%	2	171	39.7%	1
月1~2日	60	13.9%	3	60	13.9%	4
ほとんど行かない	222	51.5%	1	19	4.4%	5
誤記・無回答	19	4.4%		7	1.6%	



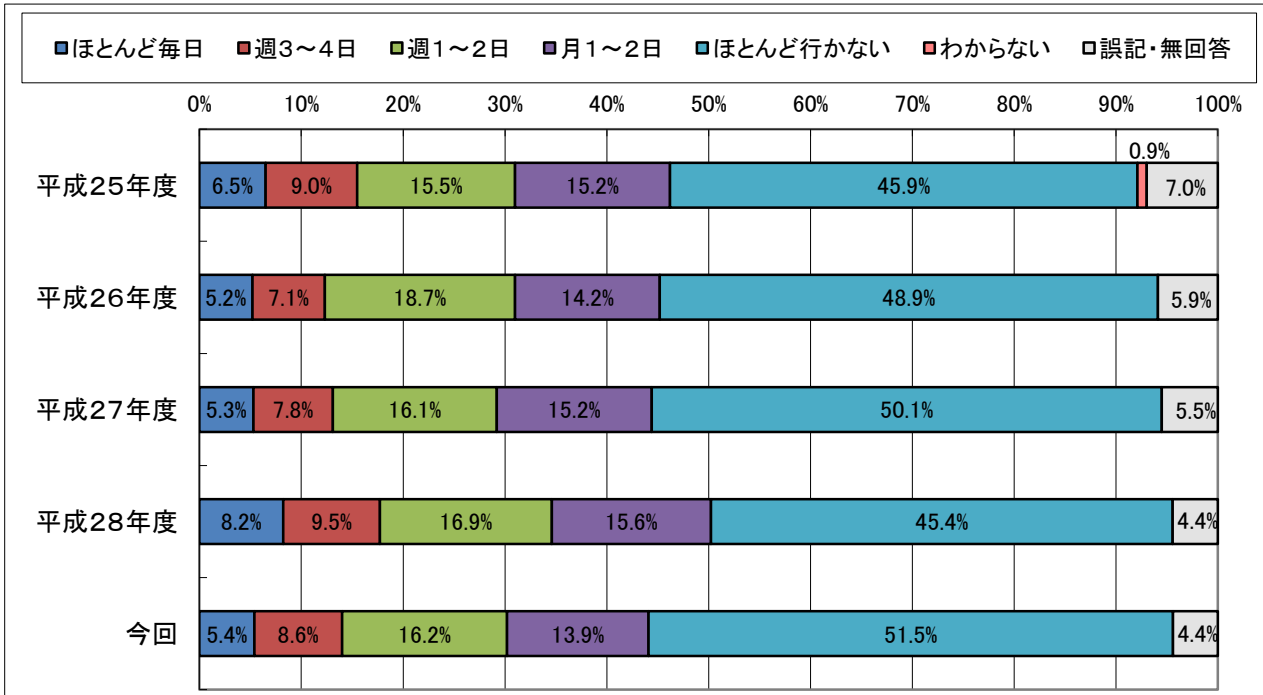
商店街や大型店(スーパーマーケット、デパート)へ買い物に行く頻度をたずねたところ、「ほとんど毎日」「週3~4日」「週1~2日」の割合の合計は、商店街の30.2%に対し、大型店は80.1%で3倍近い数値になっています。  
また、「ほとんど行かない」が商店街の51.5%に対し、大型店は4.4%となっています。

## <経年変化>

### 【商店街】

平成25年度からの推移を見ると、商店街に買い物に行く頻度の傾向は、大きく変化ありません。

●商店街に買い物に行く頻度(平成25年度からの推移)

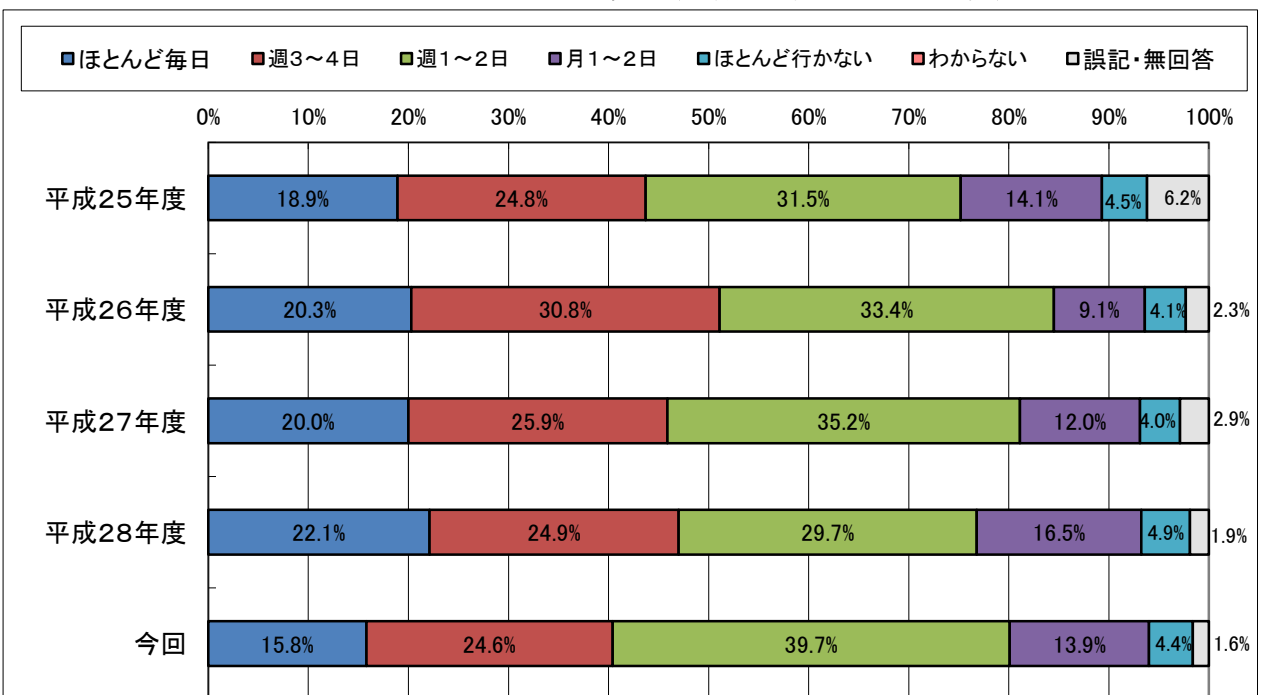


※平成26年度から「わからない」という選択肢を削除しました。

### 【大型店】

平成25年度からの推移を見ると、大型店に買い物に行く頻度が週1日以上の方がおおむね8割前後となっています。

●大型店に買い物に行く頻度(平成25年度からの推移)



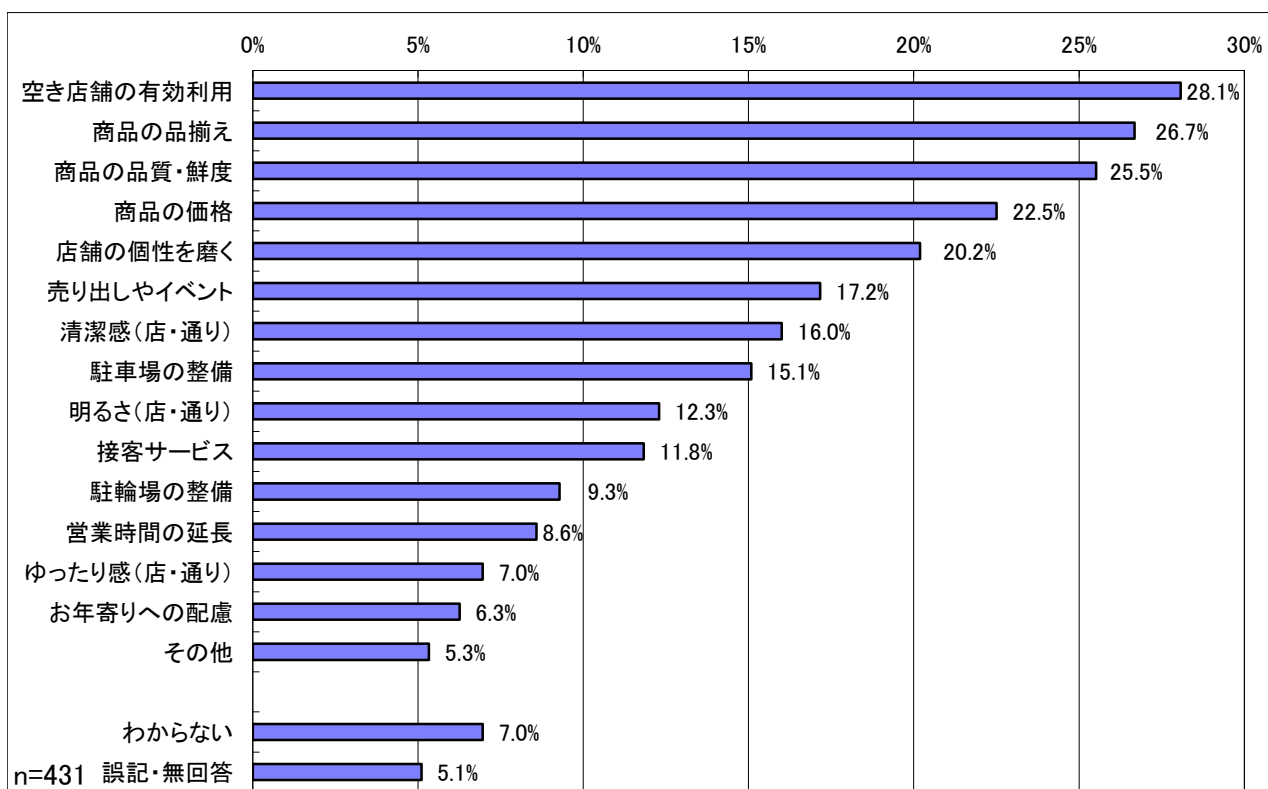
※平成26年度から「わからない」という選択肢を削除しました。



問16

商店街の活性化についてお伺いします。あなたが商店街に望むことについて、あてはまるものをお選びください。(○印は3つ以内)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
空き店舗の有効利用	121	28.1%	1
商品の品揃え	115	26.7%	2
商品の品質・鮮度	110	25.5%	3
商品の価格	97	22.5%	4
店舗の個性を磨く	87	20.2%	5
売り出しやイベント	74	17.2%	6
清潔感(店・通り)	69	16.0%	7
駐車場の整備	65	15.1%	8
明るさ(店・通り)	53	12.3%	9
接客サービス	51	11.8%	10
駐輪場の整備	40	9.3%	11
営業時間の延長	37	8.6%	12
ゆったり感(店・通り)	30	7.0%	13
お年寄りへの配慮	27	6.3%	14
その他	23	5.3%	—
わからない	30	7.0%	
誤記・無回答	22	5.1%	



商店街に望むことについてたずねたところ、「空き店舗の有効利用」が28.1%と最も多く、次いで「商品の品揃え」が26.7%、「商品の品質・鮮度」が25.5%となっています。

## <経年変化>

平成25年度からの推移を見ると、これまでは3位から5位に位置していた「空き店舗の有効利用」が昨年度に引き続き1位となっています。2位以下の項目の構成に大きな変化はありません。

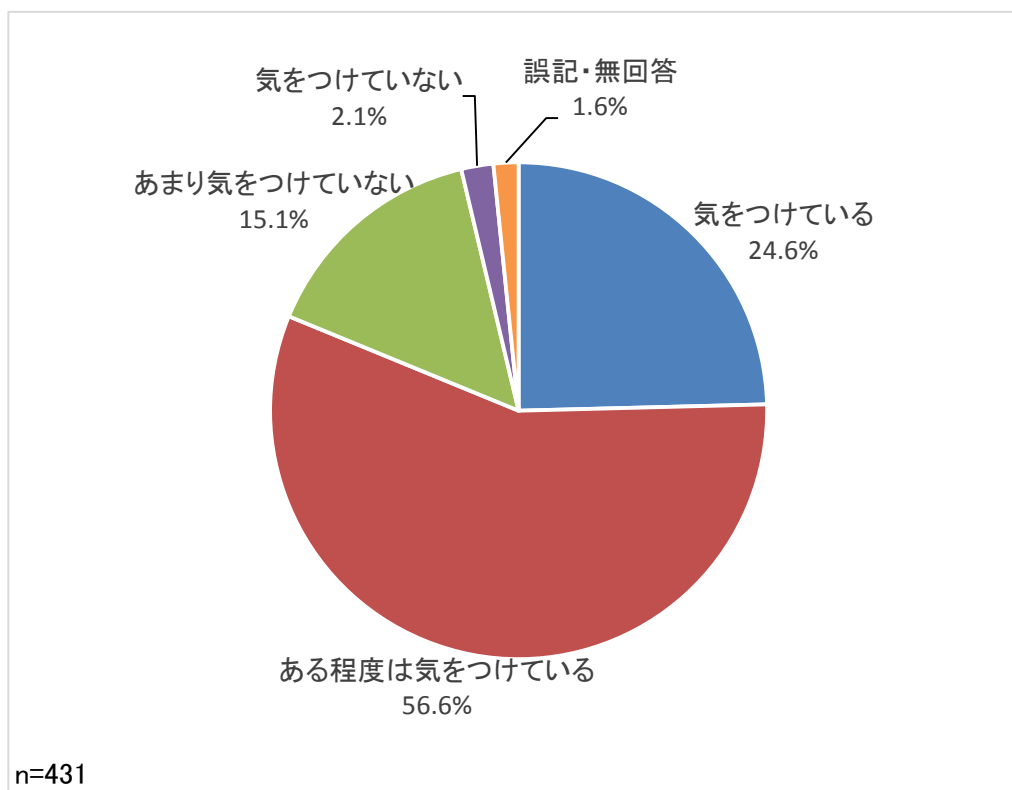
### ●商店街に望むこと 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	商品の品質・鮮度 29.9%	商品の品揃え 28.5%	商品の価格 24.5%	空き店舗の有効利用 22.8%	店舗の個性を磨く 21.1%
平成26年度	商品の品質・鮮度 30.1%	商品の品揃え 27.6%	空き店舗の有効利用 26.9%	店舗の個性を磨く 23.5%	商品の価格 21.9%
平成27年度	商品の品揃え 31.5%	商品の価格 25.3%	商品の品質・鮮度 25.1%	空き店舗の有効利用 23.6%	店舗の個性を磨く 22.4%
平成28年度	空き店舗の有効利用 30.4%	商品の品揃え 28.1%	商品の品質・鮮度 27.6%	店舗の個性を磨く 26.6%	商品の価格 21.9%
今回	空き店舗の有効利用 28.1%	商品の品揃え 26.7%	商品の品質・鮮度 25.5%	商品の価格 22.5%	店舗の個性を磨く 20.2%

<健康づくり、運動・スポーツについて>

問17 あなたは、日頃、自分の健康に気をつけていますか。(○印は1つ)

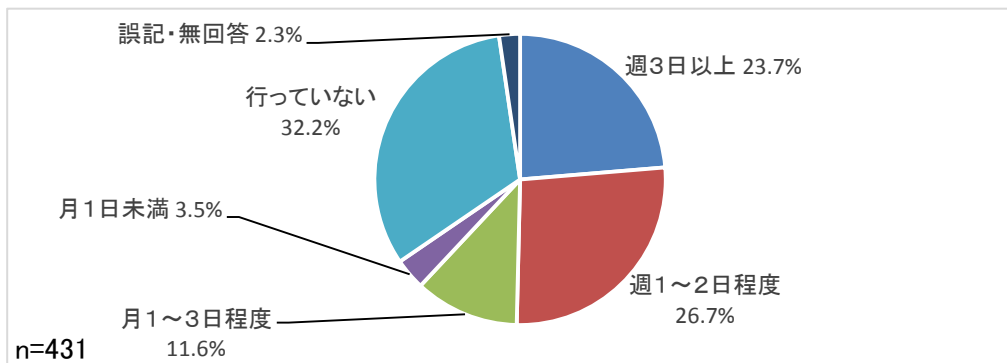
回答対象者: 431人	件数	割合	順位
気をつけている	106	24.6%	2
ある程度は気をつけている	244	56.6%	1
あまり気をつけていない	65	15.1%	3
気をつけていない	9	2.1%	4
誤記・無回答	7	1.6%	



自分の健康にどのくらい気をつけているかたずねたところ、「気をつけている」、「ある程度は気をつけている」を合わせると、81.2%の人が日頃から自分の健康に気をつけているという結果になっています。

**問18** 健康づくりなどに運動・スポーツは非常に大切であるといわれています。  
あなたは、どのくらいの頻度で運動・スポーツをしていますか。(○印は1つ)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
週3日以上	102	23.7%	3
週1～2日程度	115	26.7%	2
月1～3日程度	50	11.6%	4
月1日未満	15	3.5%	5
行っていない	139	32.2%	1
誤記・無回答	10	2.3%	

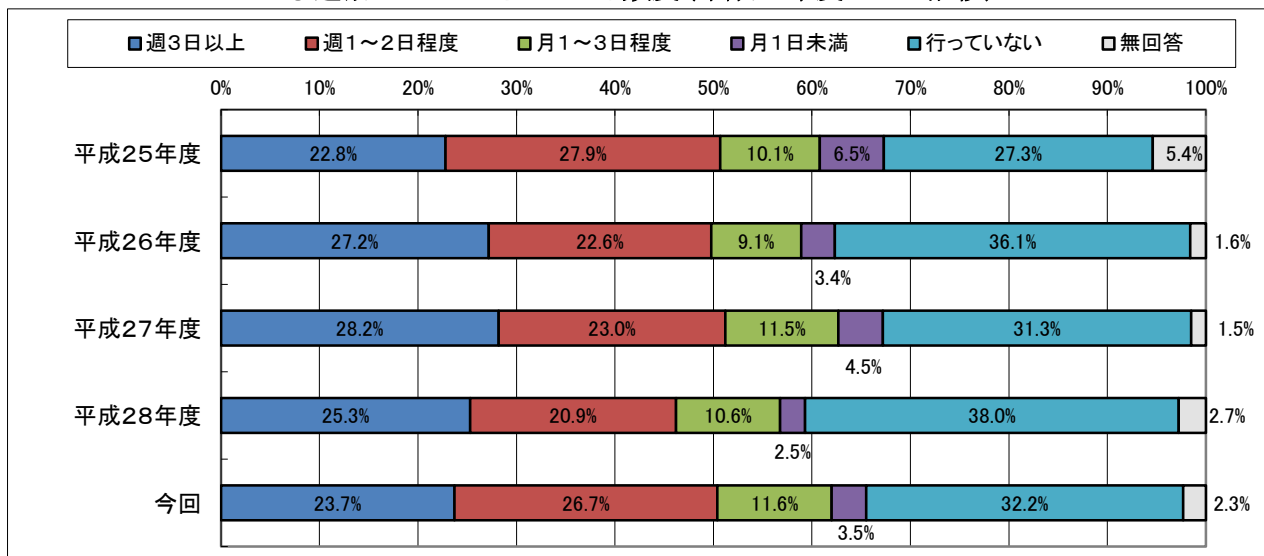


どのくらいの頻度で運動・スポーツをしているかたずねたところ、「週1～2日程度」が26.7%で最も多く、次いで「週3日以上」が23.7%、「月1～3日程度」が11.6%と続いており、半数以上の人が、週1日以上何らかの運動・スポーツをしているという結果になっています。

### <経年変化>

運動・スポーツをしている頻度について平成25年度からの経年変化を見ると、週1日以上スポーツをしている人の割合は50%前後で推移しています。

#### ●運動・スポーツをしている頻度(平成25年度からの推移)



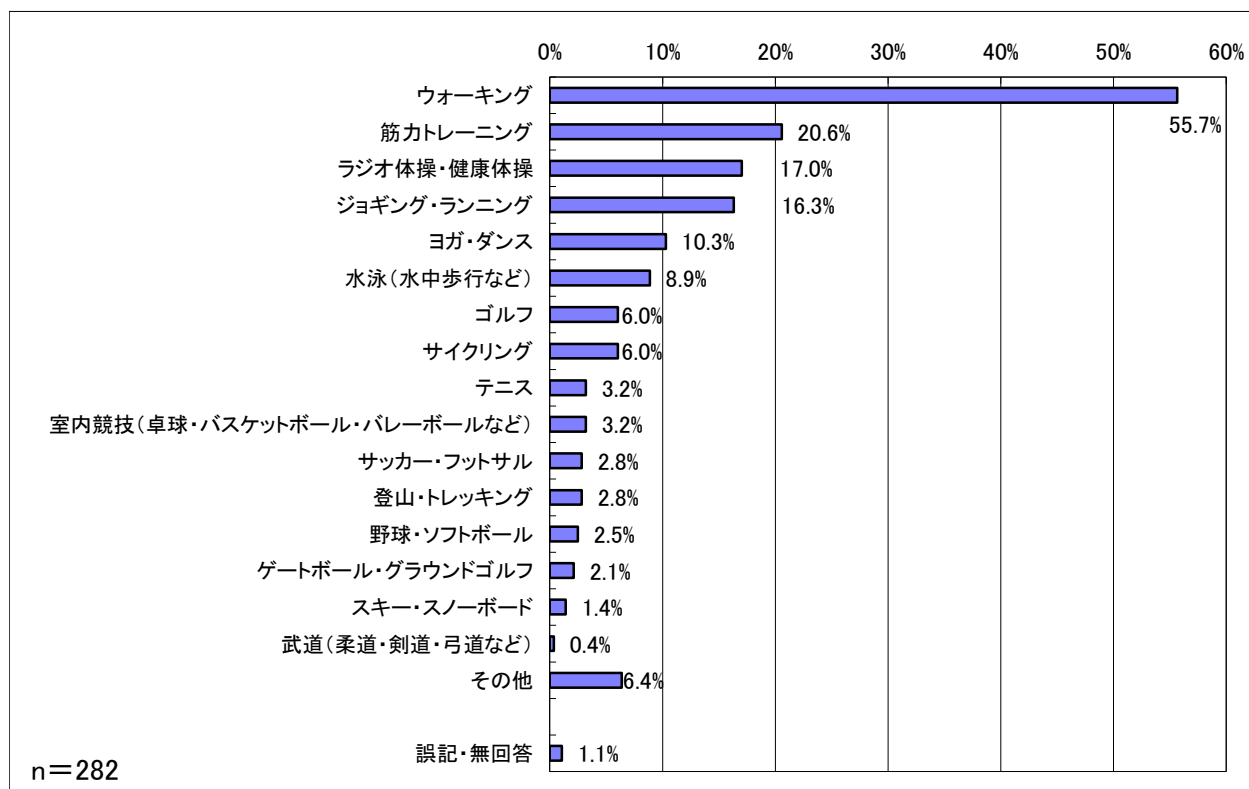
※平成26年度より回答の選択肢を変更したため、平成25年度以前の割合を現在の選択肢に合わせて再集計しました。

～平成25年度	週3回以上	週2回程度	週1回程度	月2回程度	月1回程度	2～3か月に1回程度	年2回程度	年1回程度
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
平成26年度～	週3日以上	週1～2日程度	月1～3日程度	月1日未満	行っていない	無回答		

問18で「週3日以上」「週1～2日程度」「月1～3日程度」「月1日未満」と答えた人のみ回答

問19 あなたは、主にどのような運動・スポーツをしていますか。(○印は3つ以内)

回答対象者: 282人	件数	割合	順位
ウォーキング	157	55.7%	1
筋力トレーニング	58	20.6%	2
ラジオ体操・健康体操	48	17.0%	3
ジョギング・ランニング	46	16.3%	4
ヨガ・ダンス	29	10.3%	5
水泳(水中歩行など)	25	8.9%	6
ゴルフ	17	6.0%	7
サイクリング	17	6.0%	7
テニス	9	3.2%	9
室内競技(卓球・バスケットボール・バレーボールなど)	9	3.2%	9
サッカー・フットサル	8	2.8%	11
登山・トレッキング	8	2.8%	11
野球・ソフトボール	7	2.5%	13
ゲートボール・グラウンドゴルフ	6	2.1%	14
スキー・スノーボード	4	1.4%	15
武道(柔道・剣道・弓道など)	1	0.4%	16
その他	18	6.4%	—
誤記・無回答	3	1.1%	



最も行われている運動・スポーツは「ウォーキング」で55.7%、次いで「筋力トレーニング」が20.6%、「ラジオ体操・健康体操」が17.0%となっています。

## <経年変化>

平成25年度からの推移を見ると、上位の項目の構成に大きな変化はありませんが、設問を変更した平成26年度から「ウォーキング」の割合が5割を超えています。

### ●どのような運動・スポーツをしているか 上位5位(平成25年度からの推移)

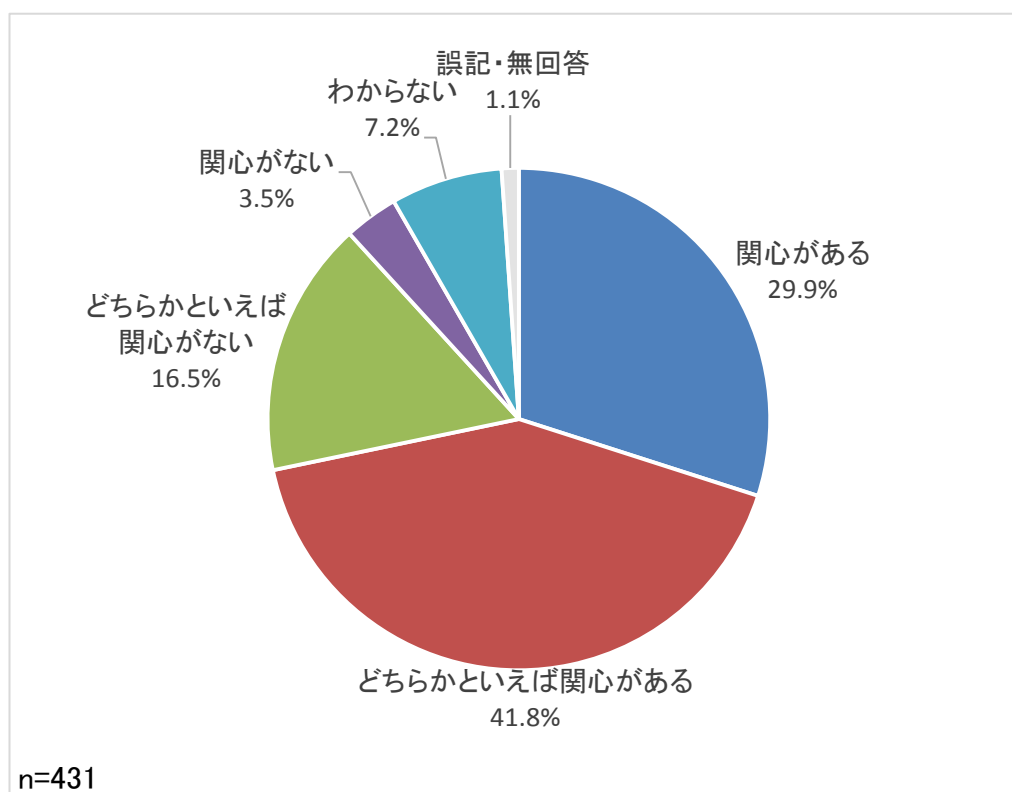
	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	ウォーキング 45.7%	体操(軽体操・エアロビなど) 18.8%	ジョギング・ランニング 15.1%	筋力トレーニング 14.7%	サイクリング 12.2%
平成26年度	ウォーキング 57.1%	ラジオ体操・健康体操 23.8%	筋力トレーニング 17.9%	ジョギング・ランニング 15.4%	ヨガ・ダンス 9.9%
平成27年度	ウォーキング 53.4%	ラジオ体操・健康体操 25.4%	筋力トレーニング 18.6%	ジョギング・ランニング 14.7%	ヨガ・ダンス 10.0%
平成28年度	ウォーキング 55.2%	ラジオ体操・健康体操 21.0%	筋力トレーニング 17.8%	ジョギング・ランニング 12.8%	ヨガ・ダンス 11.0%
今回	ウォーキング 55.7%	筋力トレーニング 20.6%	ラジオ体操・健康体操 17.0%	ジョギング・ランニング 16.3%	ヨガ・ダンス 10.3%

※回答項目の修正をしている箇所があるため同じ選択項目になっていません。  
 ※平成25年度までは、運動・スポーツをしていない人を含めた回答者全体を分母としていましたが、平成26年度より、設問の対象を運動・スポーツをしている人のみに変更したため、平成25年度以前の割合を運動・スポーツをしていると回答した人だけを分母とする割合に再計算しました。

<ごみの減量化について>

**問20** ごみの減量化やリサイクルについて関心がありますか。(○印は1つ)

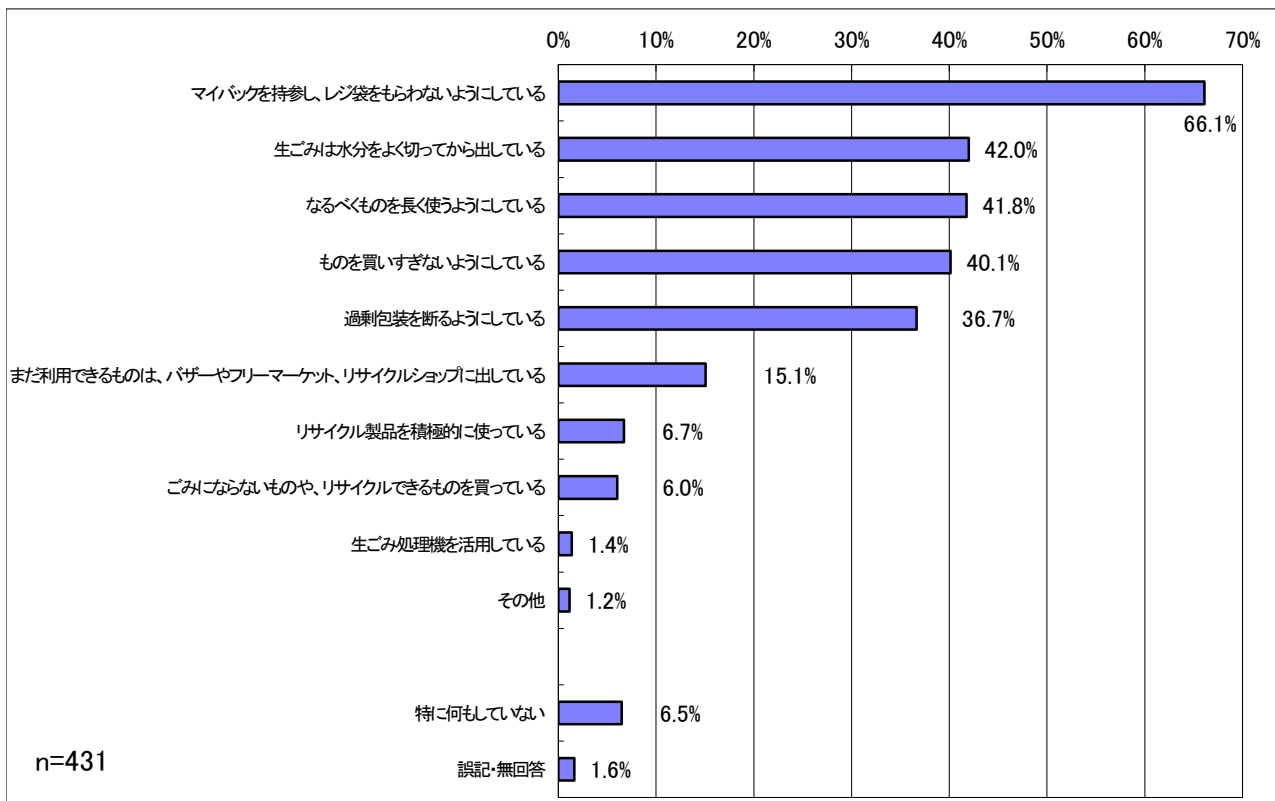
回答対象者:431人	件数	割合	順位
関心がある	129	29.9%	2
どちらかといえば関心がある	180	41.8%	1
どちらかといえば関心がない	71	16.5%	3
関心がない	15	3.5%	5
わからない	31	7.2%	4
誤記・無回答	5	1.1%	



ごみの減量やリサイクルについて関心があるかたずねたところ、「関心がある」29.9%、「どちらかといえば関心がある」41.8%を合わせると71.7%となり、およそ7割の方がごみの減量化やリサイクルについて関心があると回答しています。

問21 ごみを減らすために、どのような取り組みをしていますか。(〇印はいくつでも)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
マイバックを持参し、レジ袋をもらわないようにしている	285	66.1%	1
生ごみは水分をよく切ってから出している	181	42.0%	2
なるべくものを長く使うようにしている	180	41.8%	3
ものを買いすぎないようにしている	173	40.1%	4
過剰包装を断るようになっている	158	36.7%	5
まだ利用できるものは、バザーやフリーマーケット、リサイクルショップに出している	65	15.1%	6
リサイクル製品を積極的に使っている	29	6.7%	7
ごみにならないものや、リサイクルできるものを買っている	26	6.0%	8
生ごみ処理機を活用している	6	1.4%	9
その他	5	1.2%	-
特に何もしていない	28	6.5%	-
誤記・無回答	7	1.6%	-



ごみを減らすためにどのような取り組みをしているかたずねたところ、「マイバックを持参し、レジ袋をもらわないようにしている」が最も多く66.1%、次いで「生ごみは水分をよく切ってから出している」が42.0%、「なるべくものを長く使うようにしている」が41.8%となっています。

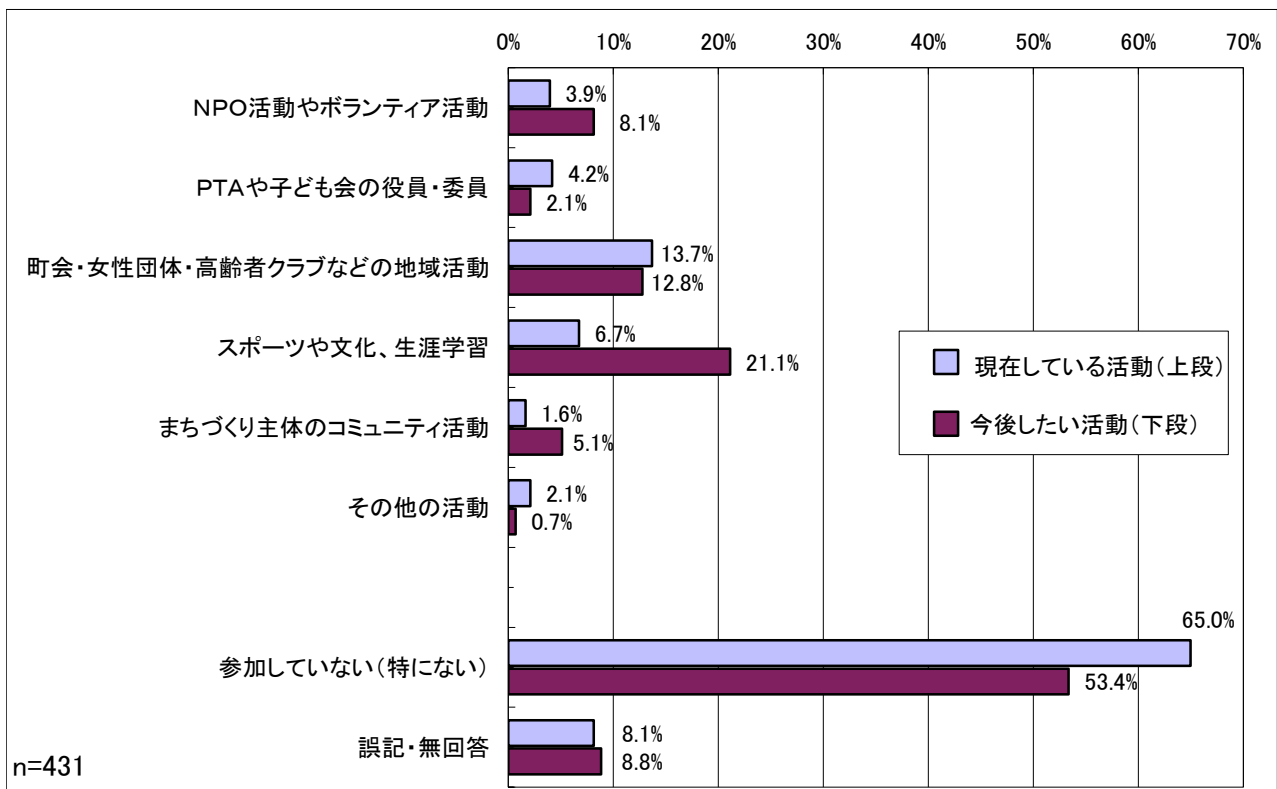
また、およそ9割の人が、ごみを減らすための何らかの取り組みを行っていると回答しています。



<市民活動について>

問22 あなたは現在、お住まいの地域等で何か活動をしていますか。また、今後したいと思う活動は何ですか。それぞれあてはまるものをお選びください。  
(○印はそれぞれいくつでも)

回答対象者:431人	現在している活動			今後したい活動		
	件数	割合	順位	件数	割合	順位
NPO活動やボランティア活動	17	3.9%	4	35	8.1%	3
PTAや子ども会の役員・委員	18	4.2%	3	9	2.1%	5
町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動	59	13.7%	1	55	12.8%	2
スポーツや文化、生涯学習	29	6.7%	2	91	21.1%	1
まちづくり主体のコミュニティ活動	7	1.6%	5	22	5.1%	4
その他の活動	9	2.1%	—	3	0.7%	—
参加していない(特にない)	280	65.0%		230	53.4%	
誤記・無回答	35	8.1%		38	8.8%	



現在している市民活動と今後したい市民活動についてたずねたところ、現在している活動としては、「町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動」が13.7%で最も多く、次いで「スポーツや文化、生涯学習」の6.7%となっています。  
一方、今後したい活動としては、「スポーツや文化、生涯学習」の21.1%が最も多く、次いで、「町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動」の12.8%となっています。

## <経年変化>

### 【現在の状況】

平成25年度からの推移を見ると、「参加していない」の割合をみると、全体的に市民活動に参加している人は増加している傾向が伺えます。

#### ●現在している市民活動 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位	参加していない
平成25年度	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 13.2%	スポーツや文化、学習活動 10.1%	NPO活動やボランティア活動 5.6%	PTAの役員・委員 3.1%	まちづくり主体のコミュニティ活動 2.8%	64.5%
平成26年度	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 10.0%	スポーツや文化、学習活動 8.2%	NPO活動やボランティア活動 5.0%	PTAや子ども会の役員・委員 2.7%	まちづくり主体のコミュニティ活動 2.1%	70.3%
平成27年度	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 12.6%	スポーツや文化、生涯学習 8.9%	NPO活動やボランティア活動 6.5%	PTAや子ども会の役員・委員 4.1%	まちづくり主体のコミュニティ活動 2.6%	65.8%
平成28年度	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 12.2%	スポーツや文化、生涯学習 11.0%	NPO活動やボランティア活動 5.1%	PTAや子ども会の役員・委員 3.8%	まちづくり主体のコミュニティ活動 2.7%	63.9%
今回	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 13.7%	スポーツや文化、生涯学習 6.7%	PTAや子ども会の役員・委員 4.2%	NPO活動やボランティア活動 3.9%	まちづくり主体のコミュニティ活動 1.6%	65.0%

※「その他」・「無回答」は除く

※平成26年度より一部選択肢の表現を見直し

### 【今後の意向】

平成25年度からの推移を見ると、2位～4位の順位に変動はありますが、各項目の割合は概ね同様の傾向が続いています。

#### ●今後したいと思う市民活動 上位5位(平成25年度からの推移)

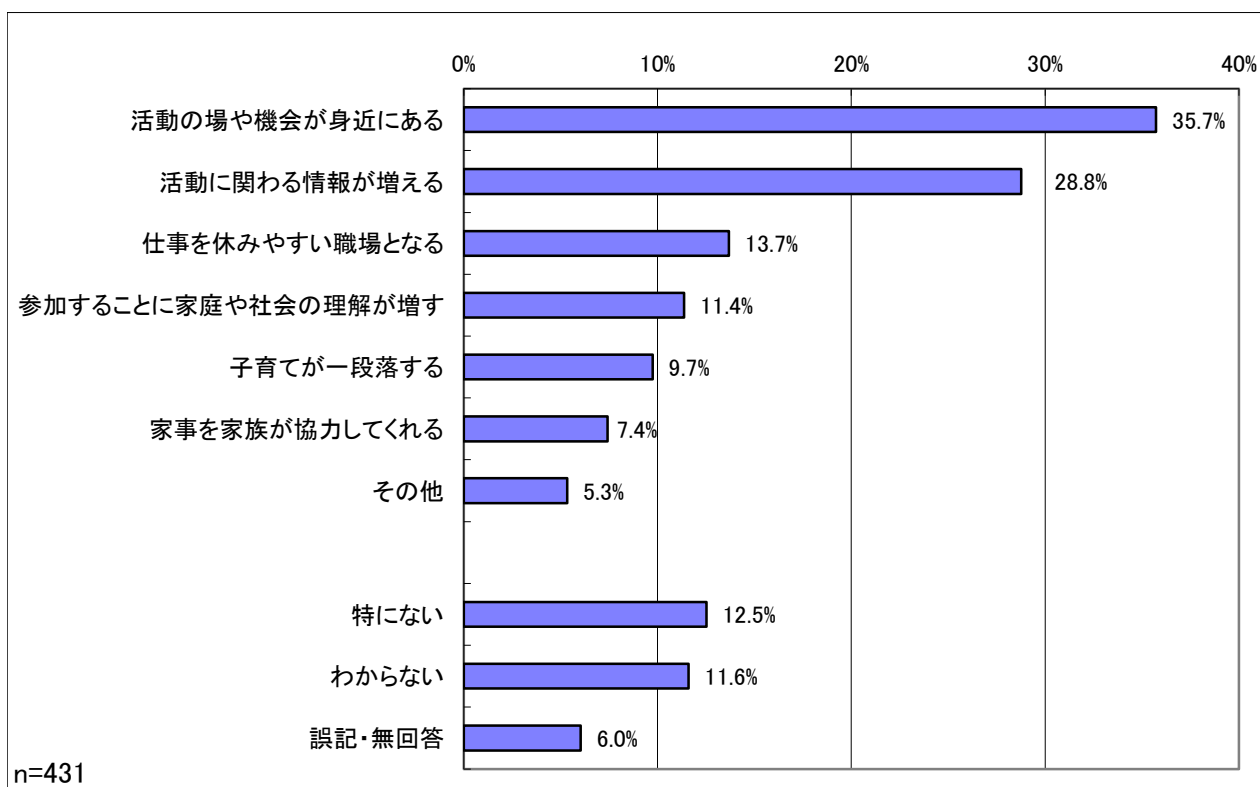
	1位	2位	3位	4位	5位	特にない
平成25年度	スポーツや文化、学習活動 18.3%	NPO活動やボランティア活動 10.4%	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動／まちづくり主体のコミュニティ活動 8.5%	PTAの役員・委員 1.7%		52.1%
平成26年度	スポーツや文化、生涯学習 20.3%	NPO活動やボランティア活動 12.3%	まちづくり主体のコミュニティ活動 9.4%	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 8.0%	PTAや子ども会の役員・委員 2.1%	52.3%
平成27年度	スポーツや文化、生涯学習 20.4%	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 7.4%	NPO活動やボランティア活動 6.9%	まちづくり主体のコミュニティ活動 5.9%	PTAや子ども会の役員・委員 1.8%	53.4%
平成28年度	スポーツや文化、生涯学習 22.2%	NPO活動やボランティア活動 10.8%	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 8.9%	まちづくり主体のコミュニティ活動 7.4%	PTAや子ども会の役員・委員 1.7%	53.0%
今回	スポーツや文化、生涯学習 21.1%	町会・女性団体・高齢者クラブなどの地域活動 12.8%	NPO活動やボランティア活動 8.1%	まちづくり主体のコミュニティ活動 5.1%	PTAや子ども会の役員・委員 2.1%	53.4%

※「その他」・「無回答」は除く

※平成26年度より一部選択肢の表現を見直し

問23 上記のような活動に参加しやすくするためには、どのような環境が必要だと思いますか。(○印は2つ以内)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
活動の場や機会が身近にある	154	35.7%	1
活動に関わる情報が増える	124	28.8%	2
仕事を休みやすい職場となる	59	13.7%	3
参加することに家庭や社会の理解が増す	49	11.4%	4
子育てが一段落する	42	9.7%	5
家事を家族が協力してくれる	32	7.4%	6
その他	23	5.3%	—
特にない	54	12.5%	
わからない	50	11.6%	
誤記・無回答	26	6.0%	



市民活動に参加しやすい環境についてたずねたところ、最も多かったのが「活動の場や機会が身近にある」の35.7%、次いで「活動に関わる情報が増える」の28.8%、「仕事を休みやすい職場となる」の13.7%となっています。

## <経年変化>

平成25年度からの推移を見ると、上位の項目の構成に大きな変化はなく、1位の「活動の場や機会が身近にある」が30%を超えています。

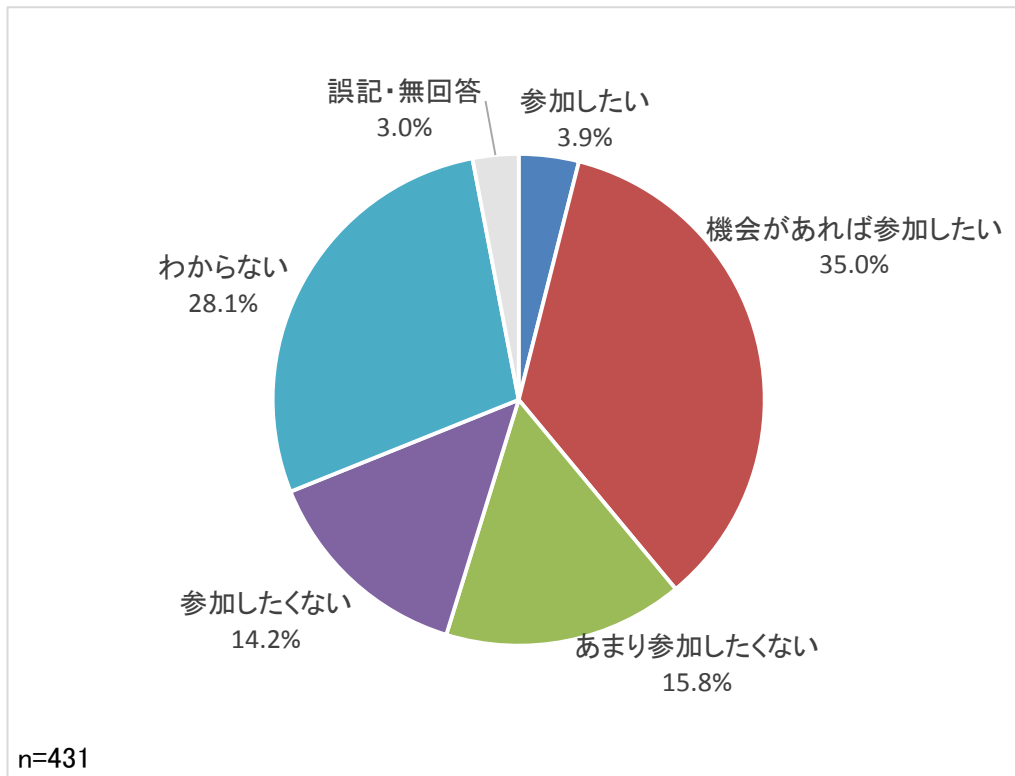
### ●市民活動に参加しやすくなる環境 上位5位(平成25年度からの推移)

	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年度	活動の場や機会が身近にある 31.5%	活動に関わる情報が増える 27.6%	仕事を休みやすい職場となる 14.4%	参加することに家庭や社会の理解が増す 13.2%	子育てが一段落する 11.3%
平成26年度	活動の場や機会が身近にある 38.8%	活動に関わる情報が増える 25.8%	参加することに家庭や社会の理解が増す 15.5%	仕事を休みやすい職場となる 11.0%	子育てが一段落する 10.5%
平成27年度	活動の場や機会が身近にある 32.6%	活動に関わる情報が増える 23.8%	参加することに家庭や社会の理解が増す 13.1%	仕事を休みやすい職場となる 12.2%	子育てが一段落する 12.2%
平成28年度	活動の場や機会が身近にある 32.1%	活動に関わる情報が増える 23.8%	仕事を休みやすい職場となる 15.4%	参加することに家庭や社会の理解が増す 13.7%	子育てが一段落する 10.5%
今回	活動の場や機会が身近にある 35.7%	活動に関わる情報が増える 28.8%	仕事を休みやすい職場となる 13.7%	参加することに家庭や社会の理解が増す 11.4%	子育てが一段落する 9.7%

<市民参加について>

問24 あなたは、市政の計画づくりやまちづくりに参加したいと思いますか。(○印は1つ)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
参加したい	17	3.9%	5
機会があれば参加したい	151	35.0%	1
あまり参加したくない	68	15.8%	3
参加したくない	61	14.2%	4
わからない	121	28.1%	2
誤記・無回答	13	3.0%	

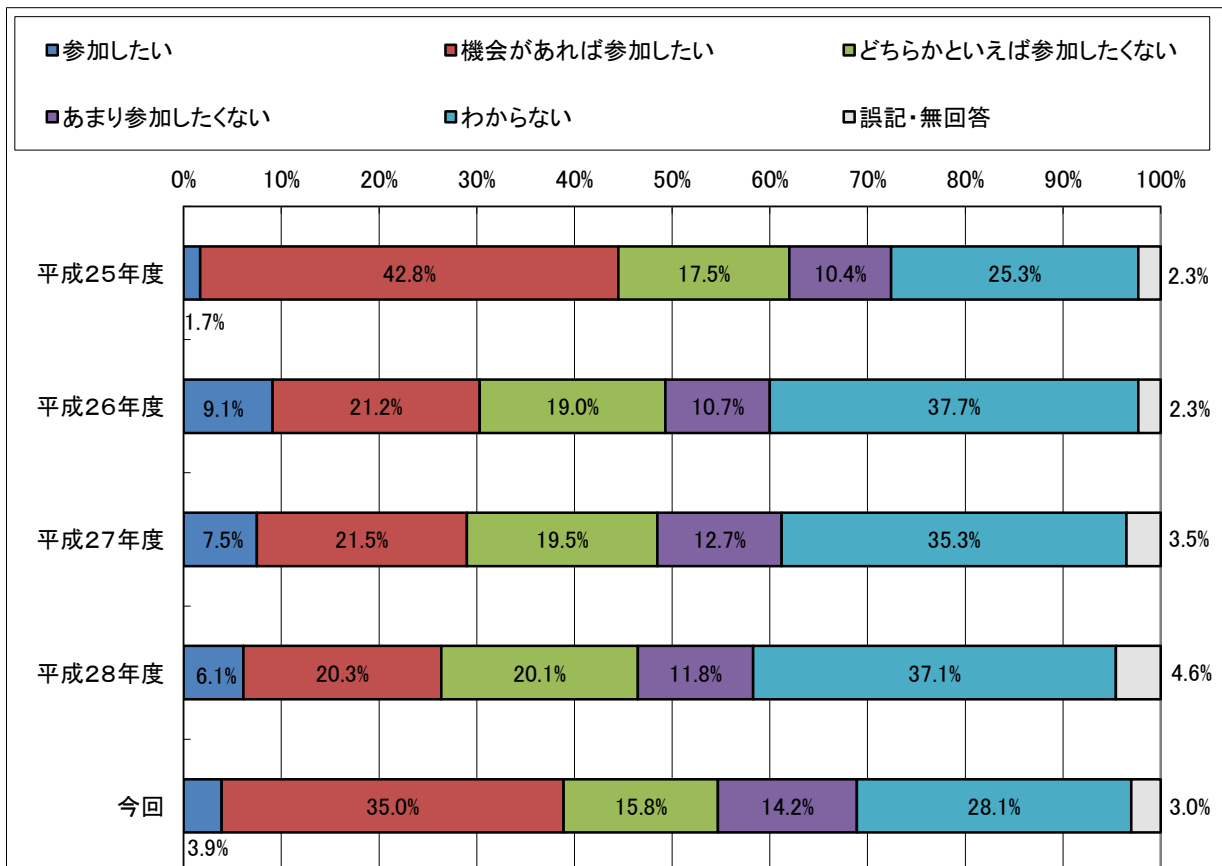


市政の計画づくりやまちづくりへの市民参加については、「参加したい」が3.9%、「機会があれば参加したい」が35.0%となっており、これらを合わせた38.9%の人が参加を望んでいることがわかります。このことから、市民参加の機会を拡充するなど行政の積極的な働きかけにより、市民参加が今以上に進む可能性が伺えます。

## < 経年変化 >

近年の数値と比較すると「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた市民活動に参加意向を持つ人の割合が大きく上昇しました。

### ● 市政の計画づくりやまちづくりへの参加について(平成25年度からの推移)



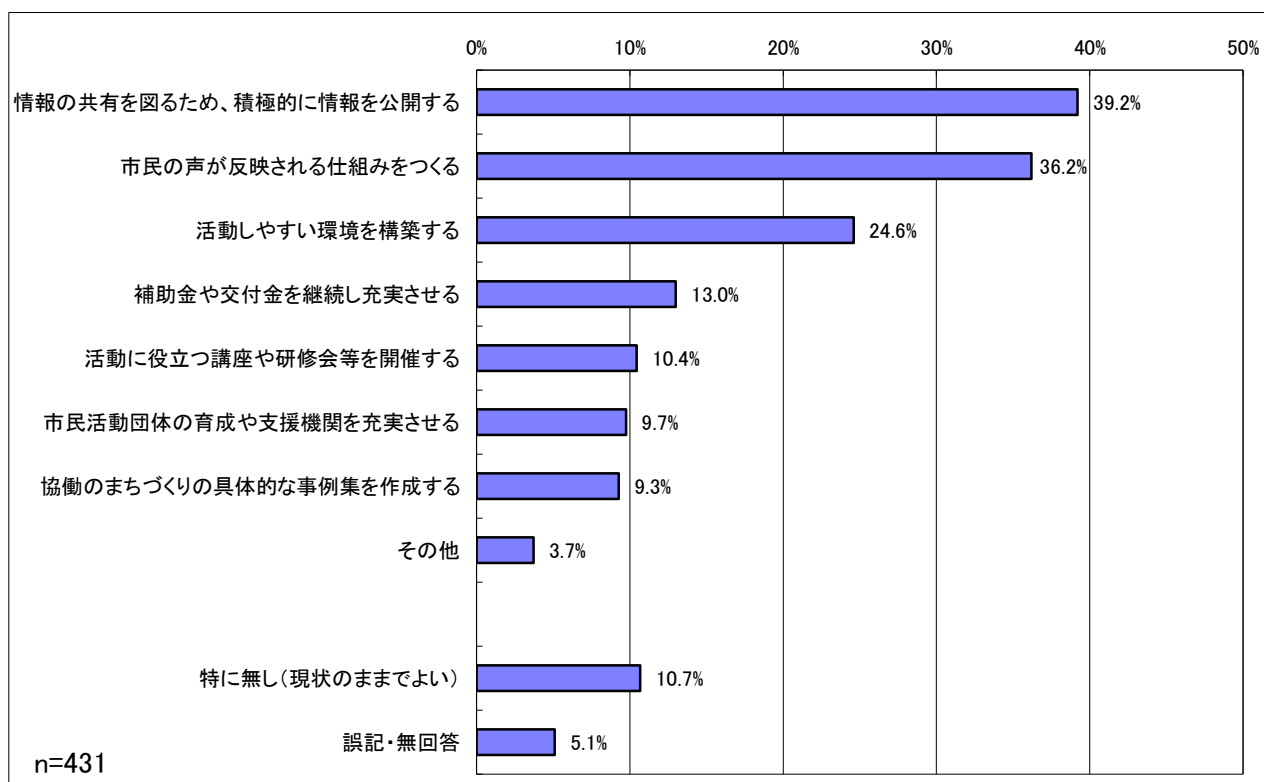
※平成26年度から一部選択肢の表現を見直し

※平成29年度から一部選択肢の表現を見直し

<協働のまちづくりについて>

問25 市民との協働によるまちづくりを進めるために、行政はどのような取り組みを充実・改善すべきだと思いますか。(○印は2つ以内)

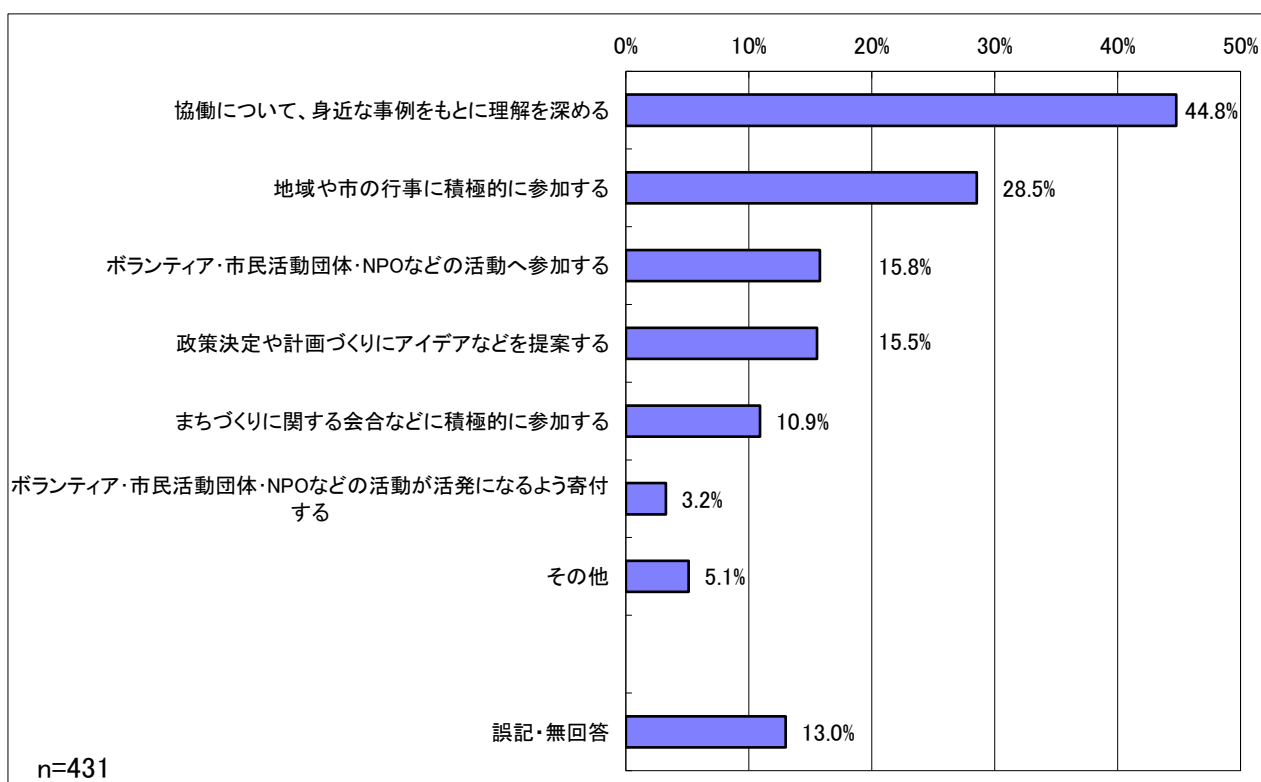
回答対象者: 431人	件数	割合	順位
情報の共有を図るため、積極的に情報を公開する	169	39.2%	1
市民の声が反映される仕組みをつくる	156	36.2%	2
活動しやすい環境を構築する	106	24.6%	3
補助金や交付金を継続し充実させる	56	13.0%	4
活動に役立つ講座や研修会等を開催する	45	10.4%	5
市民活動団体の育成や支援機関を充実させる	42	9.7%	6
協働のまちづくりの具体的な事例集を作成する	40	9.3%	7
その他	16	3.7%	-
特に無し(現状のままでよい)	46	10.7%	-
誤記・無回答	22	5.1%	-



市民との協働によるまちづくりを進めるために、行政はどのような取り組みを充実・改善すべきかたずねたところ、「情報の共有を図るため、積極的に情報を公開する」が39.2%、次いで「市民の声が反映される仕組みをつくる」が36.2%、「活動しやすい環境を構築する」が24.6%と続いています。

問26 協働によるまちづくりを進めるには、あなたは何をすればよいと思いますか。(○印は2つ以内)

回答対象者: 431人	件数	割合	順位
協働について、身近な事例をもとに理解を深める	193	44.8%	1
地域や市の行事に積極的に参加する	123	28.5%	2
ボランティア・市民活動団体・NPOなどの活動へ参加する	68	15.8%	3
政策決定や計画づくりにアイデアなどを提案する	67	15.5%	4
まちづくりに関する会合などに積極的に参加する	47	10.9%	5
ボランティア・市民活動団体・NPOなどの活動が活発になるよう寄付する	14	3.2%	6
その他	22	5.1%	-
誤記・無回答	56	13.0%	



市民との協働によるまちづくりを進めるために、何をすればよいかたずねたところ、「協働について、身近な事例をもとに理解を深める」が44.8%、次いで「地域や市の行事に積極的に参加する」が28.5%、「ボランティア・市民活動団体・NPOなどの活動へ参加する」が15.8%、「政策決定や計画づくりにアイデアなどを提案する」が15.5%と続いています。